



雪道走行時の事故防止



平成30年11月度 安全会議

雪道での事故防止の基本

スリップ・スピンなどで
自分が事故を起こさない

スリップ・スピンなどの
事故に巻き込まれない

急のつく運転を
しない

急のつく運転を
させない

他車との間隔を
十分あける

冬を迎えるにあたって



早めにスタッドレスタイヤ
に交換

バッテリー(寒冷地用)・ワイパーブレード
(冬用)・不凍液濃度のチェック

装備の搭載

(チェーン、ブースターケーブル、シャベル、
長靴、軍手、牽引用ロープ、毛布など)



運転の前に



屋根等の雪下ろし・灯火すべての除雪

窓ガラスすべての氷を融かす*

燃料・ウォッシャー液量
のチェック

靴の雪を落とす

ウォッシャー液を噴射し、
ワイパー作動状況をチェック*

装備の搭載チェック
(チェーン、ブースターケーブル、
シャベル、長靴、軍手、牽引用
ロープ、毛布など)



走行全般

急加速・急ハンドル厳禁

スピードを抑えて、等速走行

車間距離を十分とる



轍に沿って走る。ハンドルは軽く握る。
(ただし、轍が深い場合や轍から脱出する場合はしっかり握る)

できるだけ車線変更しない
(行う場合は、早めの合図でゆるやかに)



ブレーキング

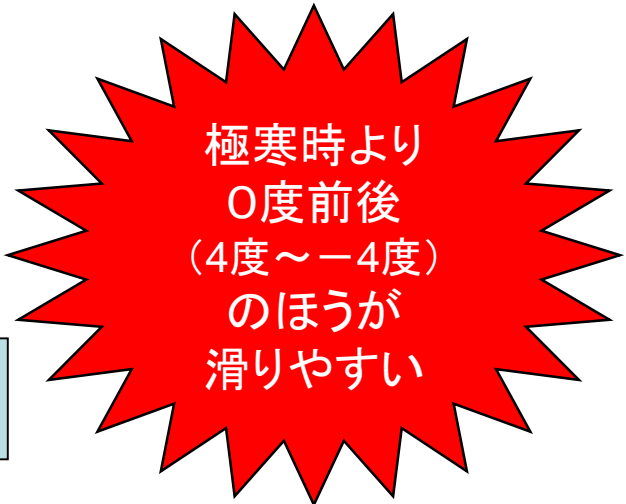
急ブレーキ厳禁

軽い踏み方でポンピングを

早めのブレーキランプ点灯で後続車の注意を喚起

エンジnbrakeの活用
(ただし急激なシフトダウンは
急ブレーキと同じ。せいぜい1~2速)

止まる寸前も要注意(強く踏むとスリップ)



極寒時より
0度前後
(4度~-4度)
のほうが
滑りやすい

ハンドル操作中にブレーキを踏み過ぎない

カーブの走行

手前で十分に減速

轍に沿って走る

できるだけカーブですれ違わない

**カーブの途中ではアクセルや
ブレーキを操作しない
(完全に直線となってから加速)**



カーブでの
スリップ事故
の大半は
ゆるやかな
カーブ

交差点の走行

交差点の手前は凍結しやすいのでスリップに特に注意

信号が赤に変わっても停止できる速度で接近



右左折時の方向指示器は早めに点灯

右左折時は徐行

赤信号で停止する場合は
停止線の手前で停止

信号待ちでの停止時も車間距離をあける

青信号で発進する場合もひと呼吸置いて、ゆっくり発進
(他車のスリップによる進入を回避)

トンネルの走行

入口付近で事故が多い

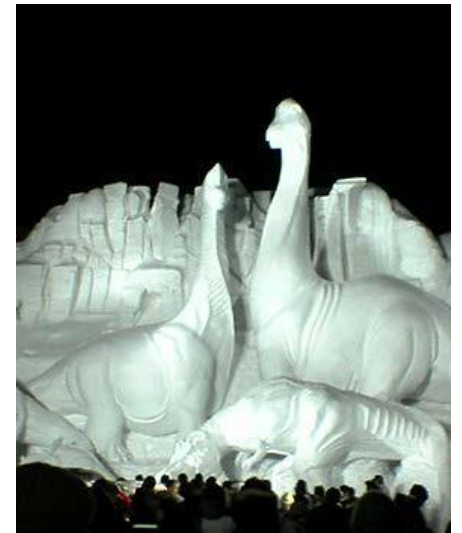
***外は圧雪道路でも入口付近は凍結**

***日光が雪に反射した場合など、トンネル内が見にくい**

入口手前から徐々に減速

**トンネル出口では乾燥路面から
いきなり圧雪路面や凍結路面に**

出口ではスピードを出し過ぎない
(トンネル内は走りやすく加速することが多い)



坂道

上り坂手前で加速しておき、高めのギアで登坂
(坂途中での急アクセルはスピン)

上り坂の途中で停止することを極力回避

下り坂手前で十分減速しておき、
エンジンブレーキを併用
(長い下り坂で一度スリップすると
コントロールがきかず、玉突きに)

**下り坂のカーブでは
特に尻振り、スリップ注意**

山越えする時は、チェーンを装着



その他滑りやすい箇所・時間

橋の上(上下から冷やされる。風も強い)

山間部・切り通し・ビルなどの日陰

濡れた路面の先の日陰



除雪された
直後の路面

夜 間

凍結状況などの路面状況が把握しにくい

早 朝

凍結路に薄雪が積もっていることが
あり、予想以上にすべる

その他雪道走行の事故防止

駐車時

サイドブレーキ
は使わない

ワイパーを立てる

排気管を雪で
ふさがない

吹雪・地吹雪

基本的には運転回避

速度、車間距離注意
(前車の尾灯を見逃すまいと接近する傾向)

ヘッドライトは下向き

歩行者との事故防止

歩行者の転倒
(特に横断歩道、段差のある部分)

道路脇に積み上げられた雪の
陰からの歩行者の飛び出し

その他

エアコン操作は
停止中に

交通情報や気象
情報の確認

走り方はわかっているのになぜ事故？

急ぎ
あせり

雪道は時間がかかるから、走りやすいところは早めに進みたい
スタート時間が遅れた

油断
慢心

雪道走行の感覚が戻った
毎年運転しており、雪道運転はうまい

疲れ
病気

雪道走行は乾燥路面の運転に比べ緊張
咳をした拍子にハンドルがぶれてスピン

**乾燥路面での運転と比べ、
ハンドルやブレーキのちょっとしたミスが事故に**